

水を飲む時はその源を思う

～早明浦ダムから香川用水を訪ねて～

ビジネス香川編集室

副編集長 鎌田 佳子

平6喝水の記憶

「今どれくらい？」

私は香川県高松市の出身で、今も高松で暮らしています。仕事はビジネス香川という情報紙の編集をしています。今年7月、高知県の早明浦ダムを訪ねました。高松に帰って、知人・友人に早明浦ダムに行ってきたよと伝えると、みんなが口をそろえて冒頭のように貯水率を聞くのです。

香川県民にとって、早明浦ダムの貯水率は気になる話題です。特に夏になると、地元の新聞やテレビニュースでもよく扱われます。私たちが使う水は、早明浦ダムからやってきているからです。

それに加えて、深く刻まれた「平6喝水」の記憶が、私たちに水源を強く意識させるのだと思います。平成6年当時、私は小学5年生でした。全校集会で校長先生から、今年のプールの授業は中止になったと聞いたことを覚えています。

日中は断水となり、蛇口をひねっても水が出ないということも経験しました。調べてみると、高松市では5時間給水が約30日間続いたそうです。暑い暑い夏休み、お風呂やポリタンクにためておいた水を少しずつ大切に使っていました。それまで、あって当然のように使っていた水が、限りある資源なのだと気付かされた出来事でした。

「四国のいのち」へ

早明浦ダムを訪れたのは約20年ぶりでした。中学校の校外学習以来です。ダムまでの道中、川の水の美しさに思わず声をあげました。澄んだ川のほとりでは、牛が草を食べています。目に映る山並みからも、高知の自然をダイナミックに感じました。

今回初めて、ボートに乗って湖面からダムを見学しました。四国の水がめの大きさを肌で感じる経験でした。ダムの堤防近くには「四国のいのち」と書かれた石碑が立っています。香川のみならず四国の人々の命がこの水で養われているのだと思うと、感慨深いものがありました。

そこから吉野川を下るように、香川用水取水工、香川用水記念公園（東西分水工）、^{ほうざん}宝山湖を訪ねました。取水工から東西分水工までは約8キロの導水トンネルが通っています。阿讃山脈を抜けて、徳島から香川に水がやってきます。トンネルの直径は約3メートル。施設を整えるために途方もない労力が費やされたことは、想像に難くありません。高知から徳島、そして香川へと、水は長い旅を経て家庭に届けられているのだと再確認できました。

余談ですが、平成21年に調整池として造られた宝山湖周辺は、私の好きな風景の一つです。歩

水を飲む時はその源を思う～早明浦ダムから香川用水を訪ねて～



早明浦ダム湖面から上吉野川橋を見上げる



早明浦ダムからの眺め



徳島にある香川用水取水工近くで



香川県三豊市の宝山湖



香川用水記念公園から阿讃山脈を望む

行者専用の周回道路は、鳥の声を聞きながらゆっくりと散歩したくなります。湖のほとりにビオトープがあり、子どもたちの環境学習にも活用されています。

飲水思源

仕事柄、私は企業の経営者や団体の代表者など多くのビジネスパーソンにお会いします。いろいろな興味深い話をお伺いするのですが、その中でも特に印象的だったものがあります。

ある企業の経営者の方が、子どもどころお母様から教わった言葉について話してくださいました。それは故事成句の「飲水思源」についてのお話でした。飲水思源は「水を飲む時はその源を思え」、「井戸を掘った人の苦勞を忘れるな」という意味の言葉です。その方は、多くの人に助けられ

ていることを常に忘れずにいなさいと教わったそうです。

今回、早明浦ダムから香川用水取水工、香川用水記念公園、宝山湖を巡り、普段使う水の源とまではいきませんが、そのエッセンスに触れられたように思います。長い年月をかけて、水が使える環境を整えてくれた人たちの苦勞は計り知れません。多くの人たちの努力があって、私は水のある暮らしができています。そして、今もその努力は絶えることなく続けられているのです。

この原稿を書いている時点では、梅雨明けからまとまった雨が降らず、早明浦ダムの貯水率が少しずつ減っています。蛇口をひねるその時に、香川から早明浦に思いをはせ、その一滴一滴を大切にしたい。今回の経験は、改めてそんなことを考えさせてくれるものとなりました。